

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470500675		
法人名	有限会社 介護センター田中		
事業所名	グループホーム渚園		
所在地	津市柳山津興382-4		
自己評価作成日	平成29年 9月20日	評価結果市町提出日	平成29年11月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/houkoku/24/index.php?action_houkoku_detail_2017_022_kihon=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成29年10月 6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎朝、職員と一緒に掃除、洗濯、食材の買い物、料理の配膳等に参加する。各自ができる範囲で得意な事を行い、一人ひとりの役割を持つことで自信を取り戻し、メリハリのある生活リズムを作る。それによって毎日が張り合いのあるものにしていただけるよう、支援している。出来る事はしていただき、出来ないところをお手伝いする。という様に、一人ひとりのペースや思いを大切にしながら支援することを心がけている。
食事は、買い物からすべて職員が行い、園内で職員と入居者様が手作りをしている。温かいものは温かく、冷たいものは冷たく食べていただく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者との散歩コースにもなっている海浜公園のすぐ近くに位置し、ゆったりとした造りの建物は懐かしい家並や大型スーパー・飲食店等に隣接し、高齢者の日々の生活の場としても恵まれた環境に立地している。三重県地域密着型サービス協議会会長や認知症の人と家族の会の世話人でもある施設長のもと、理念「地域の中で『自分らしく暮らす』」を全職員が共有し、その人の尊厳を守り、自己決定に基づいた暮らしの支援を行い、利用者一人ひとりに寄り添うケアを実践している。恒例になっている一泊旅行(昨年は京都へ出掛け、今年は山中温泉に行く予定である)は事前に施設長が現地を下見に行くなど心配りも行き届き、利用者・家族・職員の楽しみ事になっている。認知症になっても地域と繋がり、大切にされていると実感できるように、パーソン・センタード・ケア(一人の人として尊重し、その人の視点や立場に立って理解し、ケアを行う)を実践している。優しい風が流れている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしく暮らす」を理念とし、利用者主体を心がけている。	利用者には地域の一員としての役割を担いながら、日々楽しく過ごしていただきたいと、毎日の申し送りミーティング時(9時30分～)などに理念『自分らしく暮らす』サブタイトル(風と共に生きる)を振り返り、確認し、職員間の意見統一を図るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人会地域の祭り等に参加して地域の方々とふれあいをしている。	自治会に加入し、盆踊りや地域のイベントに利用者が参加しており、回覧板もまわってくる。日常的に行っている散歩や買い物時に地域の方々と挨拶を交わすなど、近隣の人々との交流の機会はとも多い事業所である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に頼まれて、認知症についての講演をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、自治会役員、家族会代表に来ていただき、開催している。会議での意見は職員へ伝えている。	自治会長・地域住民・家族会代表・津市職員が出席し、開催している。事業所からの利用者・家族・職員との1泊旅行の報告や利用者の状況説明を行い、意見交換をし易いように工夫している。議事録も毎回きちんと作成されているが本年は6月から開催出来ていない。	運営推進会議は、事業所を理解して頂ける機会として2ヶ月に1回開催していたが、本年度は開催予定日に感染症などの発症により、6月・8月は開催できていない。地域の理解と支援を得るための貴重な機会として施設長だけではなく管理者等が参加して開催されることが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、事業所の取り組みを理解していただいている。	施設長は津市介護保険事業等検討委員会・津市地域福祉計画推進委員会の委員である。津市の担当者との交流や情報交換の機会は多くあり、常に協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしてはいけない事を職員は理解している。日頃から世の中の出来事を皆さんと話し合っている。	全ての職員が身体拘束・言葉の拘束の内容とその弊害を認識し、目配り・気配り・優しい言葉かけを心掛け、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。玄関はいつもオープンにして利用者・家族がいつでも自由に入出入り出来る様に支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、身体拘束をしてはいけないことを理解しており、話し合いをミーティング時などでしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、成年後見制度を理解し、権利擁護を守っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の凍結や解約、又は改定の場合は家族等の不安や疑問点がいつでも質問ができるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や電話やメール等でいつでも質問や意見を受けられるように体制を整えている。	毎年、利用者と家族・職員で1泊旅行に行っている。(本年は山中温泉に行く予定である。)毎月、渚園たよりを送付し、ホームをを理解してもらいながら、何時でも意見を言い易い雰囲気づくりに努めている。そこから出た意見や要望はミーティングで話し合い運営やケアに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回職員会議等で常に意見や提案を交し合っている。	施設長・管理者・職員とのコミュニケーションはとても良好で、朝の申し送り時・月1回のミーティング時(全職員何らかの意見を言うようにしている)・日々のケアの現場や食事会などで出た意見や要望は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、個々の努力や、勤務状況を把握し、働きやすいように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修に参加して、各々が、技術を向上している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県地域密着サービス協議会に加盟しており、研修等に参加して、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、本人、家族に来園していただき、困っている事、不安事等を伺い、安心出来る信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、本人、ご家族に要望や思い、不安な事を伺う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、ケアマネ等、適切な支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人敬意と尊厳をもって良好な関係作りを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人、家族の絆を大切にし家族と連携を取りながら、支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の今までの馴染みの関係が途絶える事のないよう支援する。面会時間はフリー。夜間でも気軽に面会出来る環境作りをしている。	馴染みの美容室に出かけたり、家族との関係が途切れないように面会時間を自由にして何時でも訪問しやすいような、場面づくりに努めている。家族からは『ホームへ何時でも訪問し易いので有り難い』と感謝の言葉が多くある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立する事のないよう、入居者同士の関係を良く観察し、職員は介入しすぎない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係を大切にし必要に応じて支援する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人家族からの思いや要望等意向の把握に努め、会話や、様子観察、声掛けし、本人の希望を把握している。	センター方式のシートも使用しているが、夜間に眠れず話を聞いてもらいたい方とゆっくり話をしたり、話が困難な方からは表情や雰囲気から利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、又馴染みの方々からの話を伺い、把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人、家族の意見を伺い会議において検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームでの本人さんの信頼関係を築き情報を共有している。	毎朝のミーティング時や月1回の定例会で、利用者の日々の状況を職員間で把握・確認し、家族からも面会時や家族会出席時などに意見や要望を出してもらっている。モニタリングは毎月行い、介護計画は3ヶ月に1回見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの共有、実践やケアプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時々生まれるニーズ、サービス柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの人と会ったり、美容室へ出かけたり、一緒に買い物や食事に出かけたりして、豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方が訪問医の往診を受けているが、馴染みの医者などに掛かっている人は、家族と一緒に受診している。	在宅時からのかかりつけ医を利用者・家族の希望で継続されている方は、現在、家族同行で受診される方と管理者が同行される方がある。2名の協力医から月2回づつ往診をしてもらい、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から本人の体調を把握し、職場内の看護師、訪問看護師、かかりつけ医に報告、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、早急に本人の情報提供を行い、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて、日頃から病院関係者との良好な関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明で、重度化した場合の支援について、本人、家族と話し合いをしている。実際に起こったときは、家族、かかりつけ医、職員間で十分に話し合いを行い、共に支援に取り組んでいる。	利用者・家族の希望があれば、終末期に向けて、本人らしく過ごしていただく方針である。状況変化に応じて現在の事業所で、出来ること出来ないことを伝えて、段階的に合意をとりながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急隊員から救命講習を受け、職員間で伝え合って、緊急時に対して話し合い、実践力を身につけるよう、心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中や夜間等、様々な時間帯の災害を想定して訓練を行い、方法や避難経路について確認している。また、地域との協力体制も築いている。	海近くの事業所であるので、津波に備え、地域との協力体制、避難経路・場所の確認や避誘導方法について職員間で常に話し合っている。10月2日午前10時～11時30分に津市中消防署協力の基、避難訓練を行っている。(ライフジャケットも設置してある。)	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬や敬意をもって接することを心がけているので、言葉遣いにも気を付けている。職員が職員に対して言葉遣いがおかしければ注意しあったりして、気を付けている。	利用者一人ひとりの人格やプライバシーを尊重することをケアの基本としている。名前の呼び方・排泄時・入浴時・居室に入る時など、利用者の気持ちに添うように優しく支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から本人とコミュニケーションをとり、信頼関係を築くことによって、本人が気軽に要望や思いを表したり、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	好きな事や昔していた事、行きたい所やしたい事など、一人ひとりの希望を聞いたりして、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように話をしたり、支援している。家族了承の上、時には一緒に買い物に出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望をメニューに反映したり、一緒に買い物に行ったりしている。また、一人ひとりの力を活かしながら、準備や片付けをしてもらう等、その方の能力に応じて行っている。	利用者も得意な方は調理や盛り付けを行い、食欲を高めたり食事への関心を引き出す場面づくりや、調理の音や匂いで五感を刺激し、旬の食材や新鮮なものをとり入れて食事が楽しみなものになるように工夫している。職員も同じテーブルで一緒に食事をしながら楽しい会話に花が咲き、和やかな食事風景である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が少ない時には、無理に飲んでもらうのではなく、好きな飲み物などを聞いたりして、対応している。毎食栄養バランスを考えて食事を手作りしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の力に応じて自発的に口腔ケアをして頂いている。以前の口腔機能をできるだけ取り戻せるような口腔ケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の残存能力に応じた排泄スタイルを見つけ、気持ちよい排泄の提供を心がけ、声かけ、誘導を行っている。	日々の寄り添うケアから尿意のサインや一人ひとりの排泄パターンを把握して、自立排泄に向けた支援を行っている。夜間もトイレ誘導を行っている。(毎年行っている一泊旅行では失禁される方がいない実績もある。)	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	蠕動運動を行い、腸の動きを促して1日3食規則正しくとること、水分補給をこまめに十分な量を取るよう、朝食前にはコップ一杯の水を飲んでもらうようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の希望やタイミングに合わせて、いつでも入浴できるように支援している。入浴剤やゆずなどを入れてリラックスできるようにしたり、手すりや滑り止めのシャワーベンチがあり安心して、ゆったりと入浴できる。	入浴順番のローテーションを組み、不公平感がないように工夫して入浴が楽しめるように支援している。利用者一人ひとりのこだわりにもきちんと対応し、柚子湯や菖蒲湯・・・など工夫し、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋で休まれたり、ソファで休まれたり自由に休息している。夜の巡回時は眠りを妨げないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容変更など情報がわかるようにしている。一人一人の薬を把握し、個々の状態にあわせた服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の壁紙や月のカレンダー、カラオケ、ゲーム、縫物、行事に使用するものを作ったり、個々の力にあわせてやりたい事をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事前に計画して一泊旅行に行ったり、近くのスーパーや海に散歩や買い物に行ったりしている。	毎年、家族と一緒に1泊旅行(28年度は京都・29年度は石川県山中温泉に行く予定である)は利用者の希望を聞き実施している。また天気の良い日には、利用者一人ひとりの希望に添って、ヨットハーバーや交通公園までの散歩を日常的に楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に応じて、家族と相談しながら使えるように支援している。お金を所持してみえる方は、近くに店に行き、ゆっくりと買い物を楽しまれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話や手紙のやり取りができるように支援している。手紙を書かれる方は、季節の便箋やハガキを一緒に買いに行ったりして準備をし、書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝、ご自分の居室の掃除を職員と一緒にさせていただく。工作も季節を感じられる壁画を皆さんが協力して作り上げ、飾っている。天気の良い日は窓を開けて、風を入れている。	玄関横に素敵な量のスペースもある共用空間には季節の花が活けて有り、季節感や生活感をとり入れて、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士で、ゆったりとした時間を過ごせる居場所づくりの工夫が随所にみられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関に置いてある椅子で外の景色を眺められたり、ソファーに座ってテレビ鑑賞やカラオケ、隣の方とのおしゃべり等でゆったりと過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、馴染みの調度品や家族の写真を飾っている。毎月のカレンダーを色塗りしていただき、部屋に張ったり、夏は入口に暖簾をかけて、季節を感じてもらっている。	利用者が活けた季節の生花が飾られた各居室は、とても清潔である。ご夫妻で利用されている部屋にはお洒落な色合いのカバーの掛けられたベッドや懐かしい調度品が置かれている。また立派な鏡台・懐かしい筆筒や位牌が置かれた部屋など、本人の意向を確認しながら、居心地良く過ごせるように取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」「わかること」を把握し、居室に名前、目印をつけたり、洗濯物を畳んだりしまったり、ダンスに片づけたりして、自立した生活が送れるよう、工夫している。		